

ロバ君倶楽部の 活動について

通称：ロバ部



所属：川崎市麻生区 高石地域包括支援センター

氏名：倉石知恵美（川崎市・47期）

作成日：令和元年12月26日

*写真はすべて本人の承諾を得たうえで利用しています。

取り組みの概要

認知症サポーター養成講座の受講後にはオレンジリングが渡されるが、麻生区独自のものとして、手作りのロバも渡したいと考えた。しかし、仲間がいなければ実現できない。

上記のような話を地域内の認知症カフェで話したところ、趣旨に賛同された手芸好きなメンバーが集まり、右図のようなかわいい“ロバ君”の制作活動が実現した。

活動は10月にスタートしたばかりであるが、拡がり続けている。



地域の概要

ロバ部のあるエリア

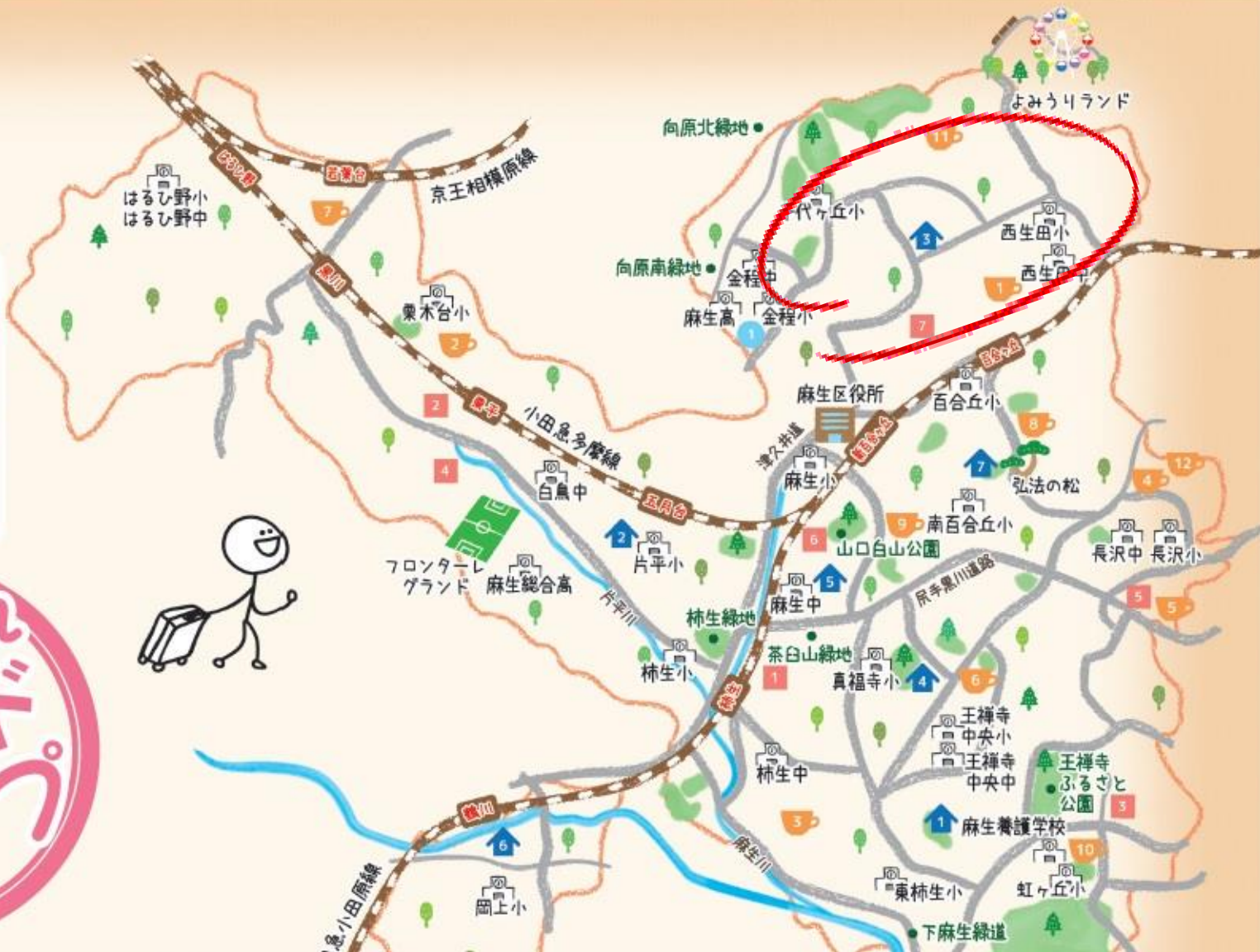
- 川崎市麻生区（海から最も離れたところ）内の千代ヶ丘、高石、多摩美（たまみ）の3町内。小田急線 新百合ヶ丘～百合ヶ丘にかけての北側に位置する戸建てを中心とした住宅地。丘陵地域で坂（一部急坂）が多い。
- 詳細は下表参照。

	千代ヶ丘	高石	多摩美	川崎市麻生区全域
人口	7,860	9,300	2,490	173,200
65歳以上人口	1,560	2,100	690	48,700
高齢化率	20%	23%	28%	28%
介護認定者数	250	390	125	6,200
介護認定率	16%	19%	18%	13%
地域特性	<ul style="list-style-type: none">開発時期は異なるが、全体が新興住宅地。周辺地域の中では、バス便が発達している地域。スーパー等もあり、生活の利便性も高い。	<ul style="list-style-type: none">開発時期は異なるが、全体が新興住宅地。国道沿いに商店が並ぶ。小田急線をまたいで南北に分断されているため、2つの別の地区と考えた方がよい。南側はアップダウンが特に激しく、バス便等の公共交通機関が少なく、コミュニティバスがそれを補っている。	<ul style="list-style-type: none">駅に近いのだが、アップダウンが特に激しい地域。大規模開発による戸建ての住宅地。経年化が進み、高齢化率が高い。道も狭く、公共交通機関（バス便）もない。買い物等移動が不便。	<ul style="list-style-type: none">南北に伸びた川崎市の最北端。小田急線で新宿まで約30分のベッドタウン的地域。元々は農村で、今も都市型農業として若手農家が健闘。区の中心は、新百合ヶ丘駅。45年前にできた新駅で、そこから大規模開発が進み、宅地化・人口増が進んだ。現在も人口・世帯数とも増加中。開発から時を経ている地区は高齢化が進み、団地においては40%を超えるところも。一方で、若い子育て世代の流入が多い地域もある。
面積 (km ²)	0.90	1.15	0.24	23.11

-  認知症カフェ
-  老人いこいの家
-  地域包括支援センター
-  老人福祉センター

麻生区内の地域包括支援センター
(詳細は裏面)

包括名	問い合わせ先	MAP番号
相生アルナ園	044-989-5403	1
栗木台	044-988-5160	2
虹の里	044-986-4088	3
片平	044-986-4986	4
百合丘	044-989-6522	5
新百合	044-969-3388	6
高石	044-989-6020	7



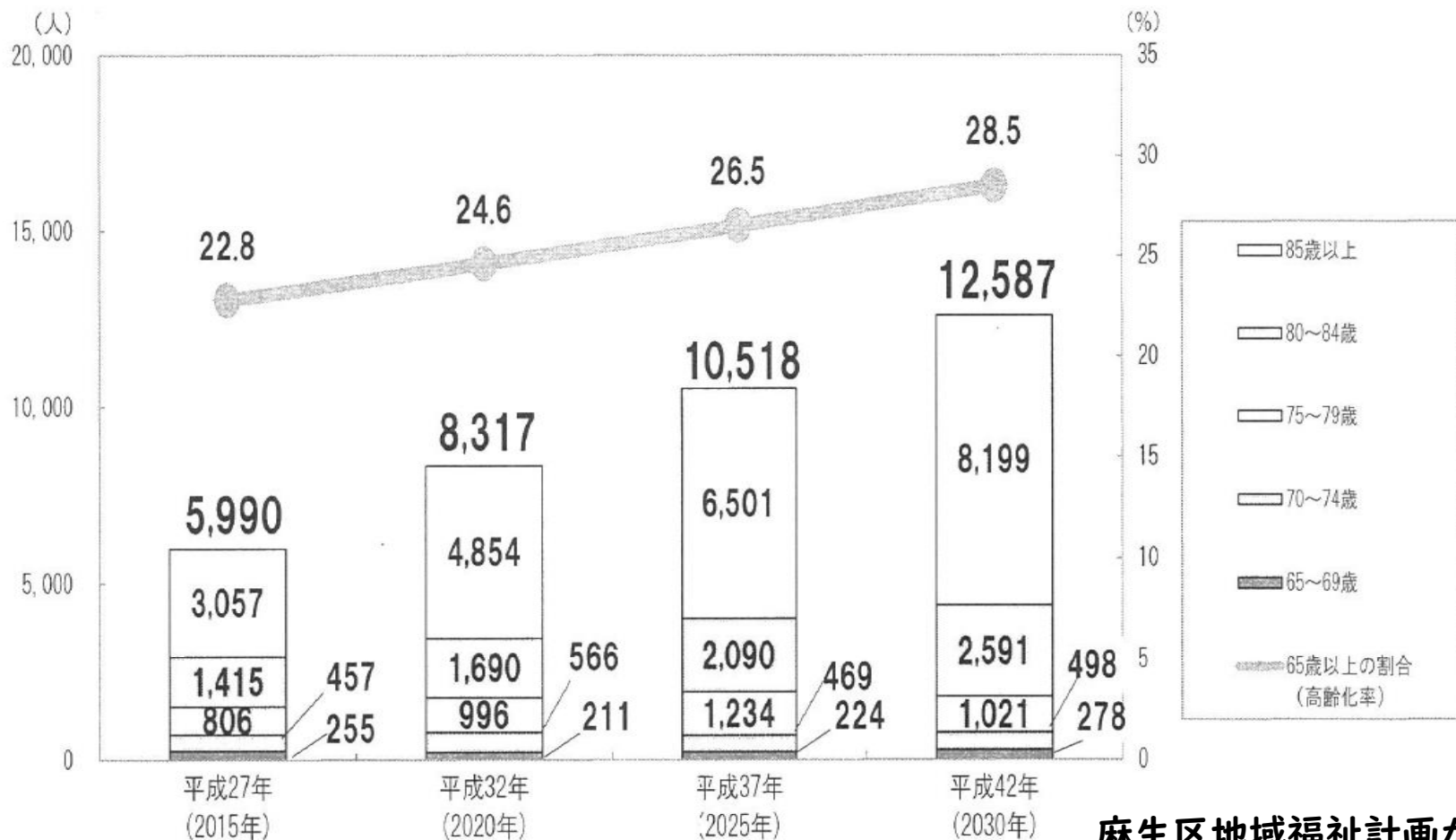
当マップは麻生区が平成30年度に作成。A2サイズのを六つ折したものとなっている。区内の認知症関連の活動を紹介している。麻生区のホームページからダウンロード可能。

右上の赤い丸のエリアが、ロバ部の活動地域（千代が丘、高石、多摩美）

行政（麻生区）からはこんな数字が。。。。

平成42（2030）年には、認知症高齢者が12,000人を超える。

麻生区の認知症高齢者数の推計



事業所紹介

～ 川崎市麻生区高石地域包括支援センター

- 社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員の3職種とケアマネージャー、地域支援強化要員（注：川崎市独自の職）の5名体制
- ロバ部の活動地域である3町（千代ヶ丘、高石、多摩美）のほか、これら住宅地とは異なる地域特性（大規模マンションと商業施設）の新百合ヶ丘駅周辺の万福寺も担当。 人口：29,000 高齢化率：19%
- 今年度は「防災」「終活」「認知症」をテーマに入れ地域活動に取り組む。
- 地域包括支援センター主体の地域活動と、自主活動の後方支援としての活動と、現在エリア内で14か所の集まりに参加。
- 域内に大規模な介護事業所（特養等）がなく、グループホームや訪問系の事業所が多い。 駅近には有料老人ホームが新設されてきている。
- 地域力を高めるには世代を超えた関係作りが大切である。町会の中では、お互いに見守りあったり、声をかけあったりで、支えあいができていますが、まだまだ把握しきれないところもある。人と人が出会い、繋がり、深めていく、こんな地域となる仕組みを今後も作っていききたい。

活動紹介

- 令和元年の10月から活動を開始。現在開始から3ヶ月で全5回実施した。
- 場所は、地域のグループホーム内の交流室（詳細後述）。
- 開催は不定期。集まった人たちで、次回いつにしようか、と決めている。
- 時間は 13:30～15:30 の2時間。その間に制作できるのは1～2体のみ。
- ただ、この時間帯はどちらかという作業をしながらの参加者同士のおしゃべりがメインの時間帯に。多くの参加者が、自宅で制作し、それを持ち寄って来てくれる。
- 現在の参加者は、全員で25名。民生委員さん、認知症カフェのメンバー、地域の世話焼きさん、手芸が好きな人等、いろいろである。認知症サポーター養成講座を受けて、ロバ君をもらった人も参加している。人が人を呼んでいる感じ。今後増えることが予想される。



活動の様子

- 役割分担は特に決めたわけではないが、刺繍系はAさん、仕上げ作業はBさん、と皆さんが自発的に動いてくれている。
- 地域の方々が積極的で、助け合い、仲間同士教えあったり、今度カフェに一緒に行こうと誘い合ったり、繋がりがどんどん広がっている。
- 解決しないことはない。地域包括支援センターが前に出なくても、参加者同士で解決してる、段取りしている。まさにこれが自主的な地域住民の活動で、出会ったことから繋がりができている。



活動開始の経緯

- 令和元年9月の認知症カフェ「オレンジリングゆりがおか」で話をした。言い出したのは地域包括支援センターだが、その場で「じゃあみんなで作りましょう」と即3人の方が賛同してくれた。
- 最初の会合は約1か月後（メンバーが風邪をひいて延期になった）。集まるまでに期間があったため、1人の方が、見本のロバを参考にネットから型紙を見つけ出し、コツコツと自宅で作り始めてくれ、最初に4人で集まった時には、完成したロバ君がすでに30体ほど出来上がった。
- 最初は会の名前を付ける事、手で作業しながらの話し合いであった。ポイントは覚えやすく、インパクトのあるもの、簡単なものが多い、ということになり、高齢者だけではなく、若い世代や地域の方誰でも参加できる会、ということで学生のクラブ活動みたいに「倶楽部」にしよう、と。じゃあロバを作るから「ロバ君倶楽部」でいいね、通称「ロバ部」だ。これなら覚えやすいね。と3人が一致して名前が決まった。
- 名前が決まり、部員を募集しようということで、すぐに右のチラシを作成し、11月の活動日には配布を始めた。

ロバ君倶楽部



仲間を大募集！！

通称：ロバ部

認知症講座でお馴染みのロバ君を作ってくれる仲間を募集しています。

認知症の普及啓発活動として、講座を受講した方々(団体)に差し上げる予定です。

ロバ君を手にする方が増えることは、誰もがその人らしく生きていける地域作りに繋がります。皆でロバ君の輪をひろげましょう。



- ・フェルト生地の下絵書き
- ・下絵をカット
- ・目と鼻付け
- ・チクチク縫物
- ・仕上げの綿入れ
- ・とにかく関わってくれる方！！

手先や頭を使うので、介護予防となります。

活動場所は地域の中で集える場所です。
※場所の提供協力も大歓迎！



この活動に興味・関心がある方は
高石地域包括支援センターまで
TEL：044-959-6020

出来上がり！



ロボ部を実施する際の留意点・工夫

人もどんどん増えて、活動の役割分担等も自発的。
敢えて言うならば、、、

- 費用のこと : 負担のないこと
 - ✓ 材料のフェルトや刺繍糸等はすべて100円ショップで揃えられる。
 - ✓ それでも個人の負担はないよう、認知症カフェの参加費の貯蓄分から支払っている。
- 場所のこと : 集まりやすい場所
 - ✓ 無料でみんなが集まりやすい場所を考え、地域内のグループホームの交流室を使わせてもらっている。この交流室は地域の方に使ってほしい、とはいうもののまだそのことが広がっていなく、使う頻度が少ない状態であった。そのため、活動の場所としてのお知らせ、周知にもなり、お互いにメリットはあった。予約をとりやすく、駐車場もあり、とても使いやすい。
 - ✓ 社協の運営する『いこいの家』で別の活動である手芸クラブが予約したときに一緒に活動した。
 - ✓ 今後は声掛けの地であった認知症カフェの場所でも行っていく予定。ここは駅から歩いてくる人にも便利。



ロボ部の活動成果

- 趣旨の説明をすると、私も何かやりたい！と声をかけてきてくれる人が多い。
- やり始めはただ裁縫が好き！というだけだった方も、集まって認知症の話や新聞記事など自然と「認知症」に触れているため、知らない間に意識が高くなったこと。これだけでも十分成果!!

作品の一部。
これまでに200近く制作、
100弱を認知症サポーター
養成講座で配布済。



課題や展望

活動はまだ始まったばかり（3ヶ月で5回の活動）

- 課題は特になし。皆さんでどんどん動いてくださっている。
- 今は集まって作るところまでであるが、今後は認知症サポーターにも参加していただき、直接配ってもらう。そこで活動の熱い想いを新たなサポーターに注入！ 区内でオレンジリングだけでなく、ロバ君を見掛けるようになったら!!
- ロバ部で認知症サポーター養成講座を受講、みんながサポーターとなる。そして次はみんながキャラバンメイト養成研修を受け、ロバ部が認知症サポーター養成講座を展開していきたい。おーこれいいでしょ～?!
- 皆さんがコツコツと作っているときに、『目標を持ってもらい、負担なくみんなで取り組んで地域貢献しましょう!』と話をしている。なんといっても国の施策（新オレンジプランや認知症施策推進大綱）を我々は担っているんですよ～と意識付けている。
- 他のエリアからもやりたい、という声は聞かれ、広めていく予定である。ロバ部の本部が本事業所で、支店が各地域に沢山あり、1年に一度ぐらい、関わっている全員が集まって宴会するとか。いろいろゲストも呼んだりして・・・

そういえば、10月に麻生区におれんじどあの丹野智文さんがいらして講演されてました。